

#### 4. コンドーム非使用者に対する STD やエイズへの危機感

コンドームを使用していないものに対し「STD に対しどのように感じているか」という問いかけである。男女ともに「自分とは関係ない」が 6 名 (21.4%)、12 名 (21.1%) であり、「自分とは関係ないとは思わないが危機感はない」17 名 (60.7%)、35 名 (61.4%)、「身近に感じており危機感がある」は女性のみ 2 名 (3.5%) であった。

表 41-1. 世代別コンドーム非使用者の STD やエイズに対する認識

F1	世代	自分と関係ない	危機感はない	危機感がある	この中にない	無回答	総計
男性	25歳未満	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	1
	25-34歳	25.0	62.5	0.0	12.5	0.0	8
	35-44歳	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	12
	45歳以上	14.3	28.6	0.0	42.9	14.3	7
男性計		21.4	60.7	0.0	14.3	3.6	28
女性	25歳未満	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	2
	25-34歳	15.4	61.5	7.7	7.7	7.7	13
	35-44歳	32.1	50.0	3.6	3.6	10.7	28
	45歳以上	7.1	78.6	0.0	14.3	0.0	14
女性計		21.1	61.4	3.5	7.0	7.0	57
総計		21.2	61.2	2.4	9.4	5.9	85

未既婚別についてみると「自分とは関係ない」は男女とも未婚者は皆無で既婚者 4 分の 1 の 25.0%、24.5% であった。「自分とは関係ないとは思わないが危機感はない」男性未婚 100.0%、既婚 54.2%、女性未婚 75.0%、既婚 61.2% といずれも未婚者に多かった。「身近に感じており危機感がある」は未婚女性のみで 25.0% でしかなかった。

表 41-2. 未既婚別コンドーム非使用者の STD やエイズに対する認識

F1	F5	自分と関係ない	危機感はない	危機感がある	この中にない	無回答	総計
男性	未婚	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	41
	既婚	25.0	54.2	0.0	16.7	4.2	161
女性	未婚	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	52
	既婚	24.5	61.2	0.0	8.2	6.1	174

2 項の非特定パートナーのコンドームの使用状況で少しでも使用しているものと 3 項のコンドーム使用の理由で「STD 予防のため」をあげているものとをクロスしてみると、未婚男性の非特定パートナーを有する 63 名中「STD 予防のため」をあげているのが 16 名 (25.4%) 既婚男性は 51 名中 19 名 (37.5)、未婚女性では 22 名中 10 名 (45.5%)、既婚女性 22 名中 6 名 (27.3%) にしか過ぎなかった。未婚女性に多かったものの各群間には有意差は認められなかった。

## VI. コンドームに対する認識の小括

### 1. コンドームの使用状況（特定パートナーに対して）

男性は「必ず使用」58%、「時々使用」25%、「殆ど使用しない」13%に対し、女性「必ず使用」55%、「時々使用」23%、「殆ど使用しない」17%と使用率は女性の方がやや低値であった。これを未既婚別でみると「必ず使用する」は既婚者の方が低値であり、既婚女性の方に「殆ど使用しない」が未婚男性3%に対し未婚女性は13%と高値を示していた。

避妊法としてコンドームを使用しているグループであり、男性の未既婚と世代別背景でコンドームの使用状況は理解できるところである。性成熟期といえる未婚女性の25-34歳において「殆ど使用しない」が23%と高値を示していたことは、妊娠-結婚という図式が描かれているのではないかと推測できる。

### 2. コンドーム使用状況（非特定パートナーに対して）

男性は「必ず使用」32%、「時々使用」7%、「殆ど使用しない」10%に対し、女性「必ず使用」11%、「時々使用」3%、「殆ど使用しない」2%と低値を示しており、これは交際相手がいないが男性で54%、女性77%含まれていたため、相手がいないと無回答を除いてみると「必ず使用」が男性76%、女性73%であった。

非特定パートナーに対しての設問であり、「必ず使用する」が高値にでてるのはSTDやエイズ予防の認識の表れかとも思われた。

### 3. コンドームを使用する理由

「確実な避妊法」と捉えているのが男性49%、女性41%、次に高値を示すのが男性で「STD予防のため」14%、女性では「安心できるが」14%であった。女性の「STD予防のため」は5%であり男性に比べ有意( $p < 0.001$ )に低値であった。このことは既婚男性の11%に対し既婚女性が2%にしか過ぎなかったためと考える。

STDに対する認識が女性に低くでているが、本来的にSTDの罹患は女性のその後の妊孕能へ与える影響、認識が低いという現れともいえるように思われた。

### 4. コンドーム非使用者に対するSTDやエイズへの危機感

「自分とは関係がない」「危機感はない」と答えるものが男女とも21%、61%と認識が非常に低いことが示され、「危機感はある」は男性では皆無で女性4%であるも25-34歳8%、35-44歳4%であった。いずれも未婚女性であり、STDやエイズに対する危機感は未婚女性の性的アクティビティの高いもので、男性は女性より低い認識であった。

2項の非特定パートナー、3項のコンドーム使用の理由からコンドームの理由が「STD予防のため」とコンドームを少なからず使用する非特定パートナーとの間においてもSTDに対する認識が低いことが明らかとなった。しかも、コンドーム非使用者の意識下でも危機感に乏しいことを考え合わせるとSTDやエイズに対する対策も改めて早急に検討しなければならないと思われた。

## VI. 予期せぬ妊娠の予防について

### 1. 低用量ピルに対する意識

予期しない妊娠の防止についてという設問で、更に詳しく避妊効果の高い低用量ピルについて聞いている。低用量ピルの使用についての実態として、「既に使用している」と答えるものが男性で7名(1.1%)、女性14名(1.8%)、この値は2002年調査時男性0.4%、女性1.6%、2004年時男性0.7%、女性1.9%に比べ男性からみるとピル服用者の認識が上昇しているものの女性では殆ど変化していないことが明らかであった。「使用していないが是非使用したい」が男性55名(8.6%)、女性46名(6.0%)であり、2002年時男性12.1%、女性13.3%、2004年時男性12.0%、女性7.2%と比較すると、男性はパートナーにピル使用の意向は今回調査で減少しており、女性のピル服用意向は年々減少していた。

「現状では使用したくない」男性68名(10.7%)、女性68名(8.8%)、「使いたくない」男性460名(72.3%)、女性585名(75.7%)であり、前回調査時男性68.3%、女性75.4%と、男性において「使わせたくない」が増加しているものの有意差は認めなかった。

表 42-1. 世代別低用量ピルに対する使用意向

F1	世代	使用している	使用したい	今の状況では使えない	使いたくない	無回答	総計
男性	25歳未満	0.9	13.0	12.2	68.7	5.2	115
	25-34歳	1.6	7.9	11.6	72.6	6.3	190
	35-44歳	0.9	6.1	8.8	75.4	8.8	228
	45歳以上	1.0	10.7	11.7	68.9	7.8	103
男性計		1.1	8.6	10.7	72.3	7.2	636
女性	25歳未満	1.4	8.8	17.0	70.1	2.7	147
	25-34歳	2.1	6.0	9.4	76.0	6.4	233
	35-44歳	1.2	5.5	6.7	76.8	9.8	254
	45歳以上	2.9	3.6	2.9	79.1	11.5	139
女性計		1.8	6.0	8.8	75.7	7.8	773
総計		1.5	7.2	9.7	74.2	7.5	1409

未既婚別でみると、「使用している」未婚男性0.8%、既婚男性1.2%、未婚女性2.3%、既婚女性1.8%であり、前回調査時未婚女性2.0%、既婚女性1.5%に比べ若干上昇していた。また、「是非使ってほしい」と考える未婚男性は33名(12.5%)、既婚17名(4.9%)と未婚の方が有意( $p<0.01$ )に高値であり、未婚女性6.0%、既婚女性4.0%未婚者にやや高いものの有意差は認めなかった。前回調査時10.7%と5.2%に比べともに減少していた。「使って欲しくない」未婚男性164名(62.1%)、既婚男性282名(81.5%)と既婚者が有意( $p<0.01$ )に高値であった。「使いたくない」が男性同様未婚188名(70.7%)、既婚357名(79.5%)と有意差( $p<0.01$ )を認めた。

表 42-1. 未既婚別低用量ピルに対する使用意向

F1	F5	使用している	使用したい	今の状況では使えない	使いたくない	無回答	総計
男性	未婚	0.8	12.5	15.2	62.1	9.5	264
	既婚	1.2	4.9	7.8	81.5	4.6	346
女性	未婚	2.3	9.0	13.9	70.7	4.1	266
	既婚	1.8	4.0	6.0	79.5	8.7	449

## 2. 低用量ピル使用是非の理由

低用量ピルの使用意向の理由として、男女ともに「避妊効果が高い」が 41.9%、25.0%と高く、次いで男性は「セックスの際に避妊を意識しなくてすむ」32.3%であったが、女性では 10.0%と 4 番目の理由であった。女性の 2 番目は「女性自身の意思で使うことが出来る」23.3%であり、男性は 14.5%と 3 番目の理由であった。女性の 3 番目の理由は「月経痛の緩和や貧血の予防などの副効用がある」18.3%と続いていた。

表 43-1. 世代別低用量ピルに対する使用の理由

F1	世代	避妊効果が高い	手軽に使える	低用量だから副作用が少ない	女性自身の意思で使える	避妊を意識しない	中絶を避ける	副効用がある	この中はない	無回答	総計
男性	25歳未満	56.3	6.3	0.0	12.5	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	16
	25-34歳	55.6	5.6	0.0	16.7	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0	18
	35-44歳	18.8	6.3	0.0	12.5	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	16
	45歳以上	33.3	8.3	0.0	16.7	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	12
男性計		41.9	6.5	0.0	14.5	32.3	3.2	0.0	1.6	0.0	62
女性	25歳未満	33.3	0.0	0.0	26.7	6.7	0.0	26.7	6.7	0.0	15
	25-34歳	15.8	10.5	5.3	36.8	0.0	10.5	21.1	0.0	0.0	19
	35-44歳	35.3	5.9	0.0	11.8	29.4	5.9	11.8	0.0	0.0	17
	45歳以上	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	11.1	9
女性計		25.0	6.7	1.7	23.3	10.0	8.3	18.3	5.0	1.7	60
総計		33.6	6.6	0.8	18.9	21.3	5.7	9.0	3.3	0.8	122

未既婚別についてみると男性の未婚者は「避妊効果が高い」が 45.7%と高く、次いで「避妊を意識しなくてすむ」22.9%であった。既婚男性は「避妊効果が高い」と「避妊を意識し

なくてすむ」が 42.9%であった。女性において未婚者は「女性自身の意思で使うことが出来る」30.0%、月経痛の緩和や貧血の予防などの副効用がある」26.7%と続いていたが、既婚者は「避妊効果が高い」30.8%、「女性自身の意思で使うことが出来る」19.2%の順であった。

表 43-2. 未既婚別低用量ピルに対する使用の理由

F1	F5	避妊効果が高い	手軽に使える	低用量だから副作用が少ない	女性自身の意思で使える	避妊を意識しない	中絶を避ける	副効用がある	この中にない	無回答	総計
男性	未婚	45.7	5.7	0.0	20.0	22.9	2.9	0.0	2.9	0.0	35
	既婚	42.9	4.8	0.0	4.8	42.9	4.8	0.0	0.0	0.0	21
女性	未婚	16.7	3.3	3.3	30.0	10.0	6.7	26.7	3.3	0.0	30
	既婚	30.8	3.8	0.0	19.2	11.5	11.5	11.5	7.7	3.8	26

### 3. 低用量ピル使用目的

低用量ピル使用者と使用意向者に、「避妊が目的」「副効用が目的」「両方が目的」三肢一択で問いかけると「避妊が目的」は男性 45 名（72.6%）、女性 33 名（55.0%）と前者に高いものの有意差は認めなかった。「副効用が目的」男性 1 名（1.6%）、女性 7 名（11.7%）と後者が高いものの有意差は認めなかった。女性の世代間では年齢が上昇するほど高値となっていた。「両方が目的」男性 15 名（24.2%）、女性 14 名（23.3%）とほぼ同率であった。

表 44-1. 世代別低用量ピル服用の目的

F1	世代	避妊が目的	副効用が目的	両方が目的	無回答	
男性	25 歳未満	56.3	6.3	37.5	0.0	16
	25-34 歳	61.1	0.0	33.3	5.6	18
	35-44 歳	87.5	0.0	12.5	0.0	16
	45 歳以上	91.7	0.0	8.3	0.0	12
男性計		72.6	1.6	24.2	1.6	62
女性	25 歳未満	46.7	6.7	46.7	0.0	15
	25-34 歳	63.2	10.5	15.8	10.5	19
	35-44 歳	64.7	11.8	17.6	5.9	17
	45 歳以上	33.3	22.2	11.1	33.3	9
女性計		55.0	11.7	23.3	10.0	60
総計		63.9	6.6	23.8	5.7	122

未既婚別でみると「避妊が目的」とするものが男女とも既婚者が高く、「両方を目的」とするものが次にきているが既婚女性に比べ未婚女性のほうが有意(p<0.05)に高値を示していた。

表 44-2. 未既婚別低用量ピル服用の目的

F1	F5	避妊が目的	副効用が目的	両方が目的	無回答	総計
男性	未婚	68.6	2.9	25.7	2.9	35
	既婚	76.2	0.0	23.8	0.0	21
女性	未婚	46.7	10.0	36.7	6.7	30
	既婚	61.5	15.4	7.7	15.4	26

#### 4. 低用量ピル使用の満足度

低用量ピル服用者に対してその満足度について問いかけており、「満足している」が男性 6 名 (85.7%)、女性 4 名 (28.6%)、「まあ満足」男性 1 名 (14.3%)、女性 7 名 (50.0%)、「やや不満」女性 1 名 (7.1%) で 45 歳以上の既婚女性であった。「不満」と答えたものは皆無であった。

表 45. 世代別低用量ピル服用の満足度

F1	世代	満足	まあ満足	やや不満	無回答	総計
男性	25 歳未満	100.0	0.0	0.0	0.0	1
	25-34 歳	66.7	33.3	0.0	0.0	3
	35-44 歳	100.0	0.0	0.0	0.0	2
	45 歳以上	100.0	0.0	0.0	0.0	1
男性計		85.7	14.3	0.0	0.0	7
女性	25 歳未満	50.0	50.0	0.0	0.0	2
	25-34 歳	40.0	40.0	0.0	20.0	5
	35-44 歳	33.3	66.7	0.0	0.0	3
	45 歳以上	0.0	50.0	25.0	25.0	4
女性計		28.6	50.0	7.1	14.3	14
総計		47.6	38.1	4.8	9.5	21

#### 5. 低用量ピルを使用したくない理由

低用量ピルを使用したくない理由として、第一にあげられるのが「副作用が心配」である。男性は 282 名(53.4%)、女性 343 名(52.5%)であった。次に男性は「女性だけに負担がかかる」65 名(10.8%)、「既に使っている避妊法で十分」が 48 名(9.1%)、「情報が入手できない」31 名(5.9%)、「性感染症やエイズを予防できない」17 名(3.2%)と続いていた。女性の

2番目は「既に使っている避妊法で十分」が57名(8.7%)、「情報が入手できない」52名(8.0%)、「毎日飲まなければならないのは面倒」42名(6.4%)、「医師の検査診察を受けるのが面倒」25名(3.8%)と続いていた。

「副作用が心配」については、前回調査の男性60.8%、女性59.3%に対し今回の結果は7.4と6.8ポイント減少しており有意差(p<0.05)を認めた。

表 46-1. 世代別低用量ピルを服用したくない理由

F1	世代	副作用が心配	情報が入手できない	相談する場所がない	毎日飲むのが面倒	女性だけに負担がかかる	すでに使っている避妊法で充分	STDやエイズを予防できない	費用がかかりすぎ	パートナーが反対	医師の診察を受けるのが面倒	年齢が高いので使えない	病気があるため使えない	ここにはない	無回答	総計
男性	25歳未満	46.2	11.8	0.0	0.0	18.3	8.6	4.3	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	8.6	0.0	93
	25-34歳	51.9	4.4	0.0	0.6	16.9	6.3	3.8	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	13.8	1.3	160
	35-44歳	58.3	4.7	0.0	1.0	8.9	10.9	2.1	1.0	0.0	1.0	0.0	0.5	10.9	0.5	192
	45歳以上	53.0	4.8	1.2	2.4	4.8	10.8	3.6	0.0	1.2	1.2	1.2	0.0	14.5	1.2	83
男性計		53.4	5.9	0.2	0.9	12.3	9.1	3.2	0.8	0.2	0.8	0.4	0.2	11.9	0.8	528
女性	25歳未満	43.0	12.5	0.8	9.4	6.3	7.8	3.9	3.9	0.0	5.5	0.0	1.6	5.5	0.0	128
	25-34歳	58.3	6.0	0.0	8.0	1.0	6.0	1.0	3.0	0.0	4.0	0.0	0.0	12.1	0.5	199
	35-44歳	53.8	7.1	0.9	4.2	3.8	9.9	2.4	1.9	0.5	2.8	0.0	1.9	9.4	1.4	212
	45歳以上	50.9	7.9	0.9	4.4	3.5	12.3	1.8	0.0	0.0	3.5	2.6	0.9	11.4	0.0	114
女性計		52.5	8.0	0.6	6.4	3.4	8.7	2.1	2.3	0.2	3.8	0.5	1.1	9.8	0.6	653
総計		52.9	7.0	0.4	4.0	7.4	8.9	2.6	1.6	0.2	2.5	0.4	0.7	10.8	0.7	1181

未既婚別でみると「副作用が心配」は男女ともに未婚者が高いものの有意な差ではない。「毎日飲むのが面倒」が未婚女性に高く、「すでに使っている避妊法で充分」は男女ともに既婚者に多かった。「医師の診察を受けるのが面倒」が未婚女性に多かった。

表 46-2. 未既婚別低用量ピルを服用したくない理由

F1	F5	副作用が心配	情報が入手できない	相談する場所がない	毎日飲むのが面倒	女性だけに負担がかかる	すでに使っている避妊法で充分	STDやエイズを予防できない	費用がかかりすぎ	パートナーが反対	医師の診察を受けるのが面倒	年齢が高いので使えない	病気があるため使えない	ここにはない	無回答	総計
男性	未婚	53.9	8.8	0.0	0.0	17.2	5.4	4.4	1.0	0.0	0.5	0.5	0.5	7.8	0.0	204
	既婚	51.8	3.9	0.3	1.6	9.4	12.0	2.6	0.6	0.3	1.0	0.3	0.0	14.9	1.3	309
女性	未婚	52.4	8.0	0.9	8.4	4.9	4.0	3.1	2.7	0.0	4.9	0.0	0.9	9.3	0.4	225
	既婚	51.6	7.8	0.3	5.7	2.6	12.0	1.3	1.8	0.3	3.1	0.8	1.0	10.9	0.8	384

## VI. 予期せぬ妊娠の予防についての小括

### 1. 低用量ピルに対する意識

低用量ピルを「すでに使っている」は男性回答 1%、女性は 1.8%、前回調査の 1.9%より 0.1 ポイント減少していた。「使用していないがぜひ使用したい」男性 8.6%、女性 6.0%、これも前回調査の 7.2%より 1.2 ポイント減少していた。

未婚女性では「使用している」が 2.3%と既婚女性の 1.8%に比べ有意差はみられないものの未婚者に高値であった。

ピルに対する意識は 2 年を経ても上昇は認められなかった。

### 2. 低用量ピル使用の理由

男性は「避妊効果が高い」42%、「セックスの際に避妊を意識しなくてすむ」32%、「女性自身の意思で使うことができる」15%であったが、女性は「避妊効果が高い」25%、「女性自身の意思で使うことができる」23%、「副効用がある」18%、「セックスの際に避妊を意識しなくてすむ」10%と選択肢が多岐にわたっていた。

これを未既婚女性でみると、未婚者は「女性自身の意思で使うことができる」30%、「副効用がある」27%に対し既婚者は「避妊効果が高い」31%、「女性自身の意思で…」19%とその理由が少し異なっていた。



このような低用量ピル使用の理由は、男性女性において、また未既婚という立場において異なってきていることが明らかとなり、実質的に確実に自ら望まない妊娠を避けるという背景では、「女性自身の意思で使うことができる」という避妊法が、わが国、日本においても手軽に入手でき使用できる環境が大切ではないかと思われた。

### 3. 低用量ピルの使用目的

「避妊が目的」「副効用が目的」「両方が目的」三択一肢でみると、避妊を第一優先するのが男性 73%、女性 55%、副効用のみは男性 2%、女性 12%、避妊と副効用の両者は男性 24%、女性 23%であり、未婚女性においては両方が 37%と高値を示していた。ピルの副効用に対する認識は女性に広がりを見せ始めているように思われた。

### 4. 低用量ピル使用の満足度

男性では「満足」86%、「まあ満足」14%と 100%が満足しているが、女性は「満足」29%、「まあ満足」50%、「やや不満」7%という結果であったが、これは実際に使用しているものが少なく無回答を除いてみると「満足」23%、「まあ満足」58%と合わせ 81%が満足していることになる。未婚女性では 100%が満足しており、既婚者は 86%であった。

### 5. 低用量ピルを使用したくない理由

「副作用が心配」が男女ともに高くともに 53%を示していた。そのほかの理由として 10%を越えているのは、男性の「女性だけに負担がかかる」12%であり、非使用の理由は種々分散されていた。未既婚別女性でみると、未既婚とも「副作用が心配」とともに 52%であるが、「すでに使っている避妊法で十分」が未婚 4%に対し既婚 12%と有意差( $p < 0.001$ )を認めた。

低用量ピルに対し副効用への認識は広がりを見せており、一度、ピルを服用すると「やや不満」を訴えるものがわずかに 7%に過ぎず、殆どが満足と答えている。そして、副作用を心配するものも前回調査よりも有意に減少しているものの、実際にピルを服用しているのが未だに上昇がみられていない。これらのことよりピル普及にはいまだ少し時間がかかるものと思われる。

## VII. 人工妊娠中絶について

### 1. 人工妊娠中絶に対する考え

人工妊娠中絶についての考えであるが、「中絶を認める」と「条件付で認める」が男性で72名(11.3%)と355名(55.8%)で計容認派は67.1%であり、女性は69名(8.9%)と472名(61.1%)計70.0%であった。男性の容認派は前回調査時の61.3%に比べ有意( $p<0.05$ )に増えており、女性の前回調査時65.4%であり、有意差( $p=0.052$ )は認められないが増えている傾向が示された。

これを未既婚別でみると未婚男性の容認派は165名(62.5%)、既婚男性243名(70.2%)と既婚者に多く、女性では未婚178名(66.9%)、既婚318名(70.8%)と後者に多いものの有意差は認めなかった。

表 47. 世代別人工妊娠中絶に対する考え

F1	世代	認める	条件付で	認めない	どちらとも	この中不在	無回答	総計
男性	25歳未満	12.2	46.1	13.9	22.6	2.6	2.6	115
	25-34歳	12.1	52.1	7.9	24.2	1.1	2.6	190
	35-44歳	10.1	60.5	6.1	18.4	1.8	3.1	228
	45歳以上	11.7	63.1	3.9	17.5	1.9	1.9	103
男性計		11.3	55.8	7.7	20.8	1.7	2.7	636
女性	25歳未満	9.5	58.5	6.1	23.8	0.7	1.4	147
	25-34歳	8.6	57.5	9.9	21.0	0.4	2.6	233
	35-44歳	8.7	62.2	5.1	18.9	1.2	3.9	254
	45歳以上	9.4	67.6	3.6	17.3	0.0	2.2	139
女性計		8.9	61.1	6.5	20.2	0.6	2.7	773
総計		10.0	58.7	7.0	20.4	1.1	2.7	1409

### 2. 人工妊娠中絶の既往

人工妊娠中絶の既往については、男性では、1回ありが46名(7.2%)、2回以上16名(2.6%)と合計9.8%と、前回調査時の9.1%とほぼ同じであった。女性では1回が84名(10.9%)、2回以上26名(3.4%)と合計14.3%であり、前回調査時16.3%に比べわずかではあるが2ポイント減少していた。また、「わからない」と答えたのは男性で61名(9.6%)、女性12名(1.6%)であった。世代別では年齢が高くなるにつれ既往率は上昇していた。

表 48-1. 世代別人工妊娠中絶の既往

F1	世代	1回	2回	3回	4回	5回以上	経験無	わからない	無回答	総計
男性	25歳未満	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	88.7	5.2	4.3	115
	25-34歳	5.8	1.6	0.5	0.0	0.5	70.0	14.2	7.4	190
	35-44歳	9.2	1.8	0.4	0.0	0.0	71.5	7.5	9.6	228
	45歳以上	11.7	4.9	1.0	0.0	0.0	67.0	10.7	4.9	103
男性計		7.2	1.9	0.5	0.0	0.2	73.4	9.6	7.2	636
女性	25歳未満	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	93.2	2.0	2.0	147
	25-34歳	8.6	1.3	0.4	0.4	0.0	83.3	0.4	5.6	233
	35-44歳	11.4	2.8	2.0	0.4	0.0	75.6	2.0	5.9	254
	45歳以上	22.3	3.6	2.2	0.0	0.0	61.2	2.2	8.6	139
女性計		10.9	1.9	1.2	0.3	0.0	78.7	1.6	5.6	773
総計		9.2	1.9	0.9	0.1	0.1	76.3	5.2	6.3	1409

未既婚別で見ると、未婚男性 8 名 (3.1%)、既婚 51 名 (14.8%) であり、未婚女性では 10 名 (3.8%)、既婚 77 名 (17.1%) と男性同様に既婚者に多かった。

表 48-2. 未既婚別人工妊娠中絶の既往

F1	F5	1回	2回	3回	4回	5回以上	経験無	わからない	無回答	総計
男性	未婚	2.3	0.8	0.0	0.0	0.0	79.2	11.0	6.8	264
	既婚	11.3	2.6	0.6	0.0	0.3	70.2	8.4	6.6	346
女性	未婚	2.3	0.4	1.1	0.0	0.0	91.0	1.5	3.8	266
	既婚	13.6	2.4	0.9	0.2	0.0	75.5	1.8	5.6	449

男性からみた初回中絶時の年齢を答えているものが 46 名中 45 名で 16-42 歳、平均年齢は  $27.7 \pm 7.8$  歳、女性は 84 名全例が回答しており、16-34 歳で平均年齢  $24.8 \pm 5.9$  歳であり、男女間の回答年齢には有意差 ( $p < 0.01$ ) を認めた。2 回目の中絶は男性で 12 名中 11 名の回答で 19-46 歳、平均年齢  $28.6 \pm 8.8$  歳、女性は 15 名全例回答しており 18-35 歳、平均年齢  $28.3 \pm 5.1$  歳であった。

### 3. 過去 1 年間の中絶の既往

中絶経験者に対し過去 1 年間に中絶の経験の有無と回数を問いかけている。男性からみた中絶経験者は 6 名 (9.7%)、女性は 16 名 (14.5%) であり女性に多かった。未既婚で見ると男性は 5 名が既婚で残り 1 名は離婚者の女性であった。女性では未婚が 3 名うち 1 名が 3 回の経験者であり、既婚女性は 11 名、離婚女性 2 名であった。

1年間に2回の2名の1人は45歳以上の既婚男性でセックスはしていないものであり、1名は45歳以上の既婚女性でコンドームと膈外射精でいつも避妊をしているものであった。3回の1名は45歳以上の未婚女性であり、コンドームでいつも避妊をしていたとあった。

表 49. 世代別過去1年間の人工妊娠中絶の既往

F1	世代	1回	2回	3回	1年間無	無回答	総計
男性	25歳未満	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	2
	25-34歳	18.8	0.0	0.0	81.3	0.0	16
	35-44歳	7.7	0.0	0.0	92.3	0.0	26
	45歳以上	0.0	5.6	0.0	94.4	0.0	18
男性計		8.1	1.6	0.0	90.3	0.0	62
女性	25歳未満	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	4
	25-34歳	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	25
	35-44歳	14.3	0.0	0.0	85.7	0.0	42
	45歳以上	5.1	2.6	2.6	87.2	2.6	39
女性計		12.7	0.9	0.9	84.5	0.9	110
総計		11.0	1.2	0.6	86.6	0.6	172

#### 4. 初回中絶時の理由

初回中絶時の理由について問いかけているが、男性では「相手と結婚していないので産めない」が多く16名(25.8%)、次に「経済的余裕がない」12名(19.4%)、「自分の仕事・学業を中断したくない」と「相手との将来が描けない」が5名(8.1%)と続いていた。

女性では「相手と結婚していないので産めない」が多く25名(22.7%)、「経済的余裕がない」18名(16.4%)、「自分の仕事・学業を中断したくない」11名(10.0%)と続いていた。

表 50-1. 世代別人工妊娠中絶に至った理由（男性）

F1	世代	未婚のため	経済的理由	これ以上子どもはほ いらない	身体が 出産に 耐えら れない	仕事 学業を 中断し たく ない	育児 に自信 がない	相手 と将来 を 描け ない	相手 を好 きで ない	この 中に ない	無回 答	総計
男性	25歳未満	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
	25-34歳	18.8	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3	6.3	43.8	0.0	16
	35-44歳	34.6	15.4	3.8	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	30.8	0.0	26
	45歳以上	22.2	38.9	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	5.6	18
男性計		25.8	19.4	4.8	1.6	8.1	1.6	8.1	1.6	27.4	1.6	62

表 50-1. 世代別人工妊娠中絶に至った理由（女性）

F1	世代	未婚のため	経済的理由	これ以上子どもはほしくない	身体が出産に耐えられない	仕事・学業を中断したくない	育児に自信がない	相手と将来を描けない	相手を好きでない	この中ではない	無回答	総計
女性	25歳未満	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	4
	25-34歳	24.0	16.0	8.0	0.0	12.0	0.0	8.0	8.0	24.0	0.0	25
	35-44歳	26.2	16.7	4.8	4.8	9.5	2.4	9.5	0.0	26.2	0.0	42
	45歳以上	20.5	15.4	10.3	7.7	5.1	5.1	7.7	0.0	28.2	0.0	39
女性計		22.7	16.4	7.3	4.5	10.0	2.7	9.1	1.8	25.5	0.0	110
総計		23.8	17.4	6.4	3.5	9.3	2.3	8.7	1.7	26.2	0.6	172

未既婚者別にみても、初回中絶が結婚前のことが多いためか男女ともに高くなっており、「自分の仕事・学業を中断したくない」も特に未婚者に高値を示していることから、そのことが窺える。また、「経済的理由」や「これ以上子どもが欲しくない」が既婚者に多い結果であった。

表 50-1. 未既婚別人工妊娠中絶に至った理由

F1	F5	未婚のため	経済的理由	これ以上子どもはほしくない	身体が出産に耐えられない	仕事・学業を中断したくない	育児に自信がない	相手と将来を描けない	相手を好きでない	この中ではない	無回答	総計
男性	未婚	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	37.5	0.0	12.5	0.0	8
	既婚	27.5	19.6	5.9	2.0	5.9	2.0	2.0	2.0	31.4	2.0	51
女性	未婚	40.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10
	既婚	26.0	14.3	9.1	3.9	9.1	2.6	10.4	1.3	23.4	0.0	77

## 5. 初回中絶時の思い

初回中絶時に抱いた気持ちについて、男性では「相手に対して申し訳ない気持ち」が最も多く 20 名(32.3%)、「胎児に対して申し訳ない気持ち」18 名(29.0%)、「自分を責める気持ち」10 名(16.1%)と続いていた。

女性は「胎児に対して申し訳ない気持ち」が最も多く 58 名(52.7%)、「自分を責める気持

ち」16名(14.5%)、「人生において必要な選択である」11名(10.0%)「手術への不安」8名(7.3%)と続いていた。

表 51-1. 世代別初回人工妊娠中絶時に対する考え

F1	世代	人生に 必要な 選択	多くが中 絶してい るからか まわない	解放 される	手術 への 不安	自分 を責 める 気持 ち	胎児 への 憐憫	相手 への 憐憫	相手 への 怒り	親に 対し て申 し訳 ない	この 中に ない	覚え てい ない	無 回 答	総 計
男 性	25歳未満	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	2
	25-34歳	0.0	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8	43.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	16
	35-44歳	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	26.9	34.6	3.8	0.0	19.2	0.0	0.0	26
	45歳以上	5.6	0.0	0.0	0.0	22.2	44.4	22.2	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	18
男性計		1.6	1.6	1.6	3.2	16.1	29.0	32.3	1.6	0.0	9.7	3.2	0.0	62
女 性	25歳未満	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
	25-34歳	12.0	0.0	8.0	4.0	8.0	60.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	25
	35-44歳	11.9	0.0	2.4	7.1	19.0	42.9	0.0	2.4	2.4	7.1	2.4	2.4	42
	45歳以上	7.7	0.0	0.0	7.7	12.8	61.5	0.0	0.0	2.6	5.1	0.0	2.6	39
女性計		10.0	0.0	2.7	7.3	14.5	52.7	0.0	1.8	1.8	6.4	0.9	1.8	110
総計		7.0	0.6	2.3	5.8	15.1	44.2	11.6	1.7	1.2	7.6	1.7	1.2	172

## VII. 人工妊娠中絶についての小括

### 1. 人工妊娠中絶に対する考え

「人工妊娠中絶を認める」と「条件付で認める」という容認派は、男性 67%、女性 70%であり、前回調査時男性 61%、女性 65%に比べると有意差はないものの容認する考えが増えている傾向が窺われた。

### 2. 人工妊娠中絶の既往

男性が把握している相手の中絶の既往は 10%ほどであったが、女性の既往回答は 14%と男性に比べ 4 ポイント異なっていた。また、世代が高まるにつれ既往率は上昇していた。中絶既往女性で 2 回以上の複数の既往を有するものは 24%であった。

1 回目中絶時の女性の平均年齢は男性からの回答では 27.7±7.8 歳であり、女性は 24.8±5.9 歳と男女間の回答で有意差(p<0.01)を認めた。この違いは、男性に告げずに行っているためではないかと思われた。2 回目中絶では、男性回答で 28.6±8.8 歳、女性は 28.3±5.1 歳ということからもうなずけるところである。

### 3. 過去1年間の中絶の既往

中絶経験者に対し過去1年間に中絶を経験しているものが男性からの回答では6名(9.7%)、女性は16名(14.5%)であり女性に多く、1年間に2回の2名の1人は45歳以上の既婚男性でセックスはしていないものであり、1名は45歳以上の既婚女性でコンドームと膣外射精でいつも避妊をしているものであった。3回の1名は45歳以上の未婚女性であり、コンドームでいつも避妊をしているというものであった。

わずか1年間で中絶を繰り返す女性は、その避妊に対しどのような認識をもっているのかがこの背景から窺うことができなかった。

### 4. 初回中絶時の理由

男性は「相手と結婚していないので産めない」26%、次に「経済的余裕がない」19%であり、女性では「相手と結婚していないので産めない」23%、「経済的余裕がない」16%、「自分の仕事・学業を中断したくない」10%であった。

「相手との将来を描けないから」という理由が、35-44歳未婚男性に特に多かったことは社会的基盤が若しくは地位がそのような考えをもたらしているのかともおもわれた。

### 5. 初回中絶時の思い

男性では「相手に対して申し訳ない気持ち」32%、「胎児に対して申し訳ない気持ち」29%、「自分を責める気持ち」16%であり、女性は「胎児に対して申し訳ない気持ち」53%、「自分を責める気持ち」15%、「人生において必要な選択である」10%であった。

「人生において必要な選択である」と考える男性は1名に対し女性11名であり、男女間に有意差は認めないものの、この違いは中絶そのものが女性自らの選択に握られているためではないかと推察された。

## まとめ

性行動は若者の間で活発化していることは、今回の本調査でも明らかなこととなった。その性行動の実態は、若者以外の男女間においても複雑な性的関係性を示すようになってきているようにも窺われるようになってきている。複数のパートナーとの性的関係を持つもの、すなわち不倫的な関係が男性に多いものの、女性も増えているようである。

性意識や性行動の実態からみると、特に婚姻関係に入った女性はセックスに対する関心度が低下し、相手との付き合いを面倒と思う気持ちが強くなり、しかも性行動に至る機会も自分の意欲を持って拒否し少なくなっているようでありセックスレスが増えてきているようであった。このことは、わが国が抱えている少子化問題の根幹を揺るがすところのものとも思われ早急な対策が必要であることが示唆された。

このような現状に対し、一般的には STD やエイズなどの性感染症の問題として認識は高まりつつあるように思えるようだが、実質的には危機感を抱くものは少なかった。そこには、性行為という現実には差し掛かったときに、男性は避妊を意識しているものの女性は相手任せの避妊法という実態が浮き彫りになったのではないだろうか。女性にとって避妊法の選択肢は広がりを見せていても、現実的には男性主導型の性行動であることが明らかとなった。

このような性行動の実態、そして避妊法の実態からみて、無防備な性行動の結果として STD と望まない妊娠を抱え込むのは女性でしかないわけである。ピルや緊急避妊ピルに対して若い女性の認識は高まりつつあるものの、女性が主体となって「女性の性と健康」を今一度、考えどのようにしていくべきかを新たに見詰めなおしていかなければならないと、今回の調査で深く考えさせられた。

さらに、性行動の実態からみて「わが国の少子化問題の対策」をも見詰めなおす必要性が深く示唆された。



# 厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

## 分担研究報告書

### 人工妊娠中絶の減少要因に関する研究

分担研究者 北村 邦夫 （社）日本家族計画協会

分担研究者 中村 好一 自治医科大学医学部公衆衛生学教室

#### 研究要旨

2005年度の衛生行政報告例によれば、人工妊娠中絶実施総数は289,127件で史上初めて30万件を記録する一方、20歳未満は30,119件となり前年比4,626件減少している。20歳未満の人工妊娠中絶実施件数を1歳階級別にみると、15歳未満でも308件行われていることが判明している。

本研究班では、わが国の20歳未満の人工妊娠中絶減少の真偽を確かめるために、平成19年1月9日に全国の緊急避妊ネットワーク加入会員1,344人に郵送による調査を実施し813人からの回答を得ることができた。既に閉院された施設などからの返送分を除いた1300件を母集団として有効回答数は62.5%と高率であった。その結果、無回答を除く792人の産婦人科医のうち572人（72.2%）が20歳未満の人工妊娠中絶実施件数が減ったと回答し、その理由として低用量経口避妊薬（ピル、OC）や緊急避妊法（性交後避妊、モーニングアフターピル）の周知と普及を挙げていた。

#### 研究協力者

菅 睦雄 リプロヘルス情報センター  
松浦 賢長 福岡県立看護大学  
杉村由香理 （社）日本家族計画協会

詳細に分析することによって人工妊娠中絶の減少要因を明らかにすることができるものと確信している。

#### B. 研究方法

平成19年1月9日に、（社）日本家族計画協会の呼びかけで組織された、「全国緊急避妊ネットワーク」加入会員1,344人に郵送によって、「緊急避妊ピル並びに低用量ピルの処方実態に関する調査票」を送付した（別添資料）。その結果、2007年2月28日までに到着した857件のうち、既に閉院、死亡などの記載があった44件を除く813件を集計・分析の対象とした（回収率62.5%）。

#### A. 研究目的

20歳未満の人工妊娠中絶実施件数並びに実施率は依然として高率ではあるものの、ここ4年ほど減少傾向を示していることが報告されている（平成17年度衛生行政報告例）。その真偽を確かめるために、（社）日本家族計画協会の呼びかけで組織された「全国緊急避妊ネットワーク」加入会員1,344施設に対して調査を実施した。この調査結果を

調査内容は以下の通りである。

①20歳未満の人工妊娠中絶の実施数が僅か  
とはいえ前年比減少したという報告がある  
が、現場での印象とその理由を聞いた。

②ピルの処方実態と経費

③ピルを処方する際の留意点

③緊急避妊ピルの処方実態と妊娠数

④緊急避妊ピルを処方する際の留意点

(倫理面への配慮) 本調査研究を進めるに  
あたって、回答を寄せてくれた施設の低用  
量経口避妊薬、緊急避妊ピルなどの処方実  
態を知ることになるが、都道府県レベルの  
データ処理にとどめ、施設名などが公にな  
らないような十分に配慮した。

## C. 研究結果

1. 20歳未満の人工妊娠中絶実施件数の  
実態

わが国の20歳未満の人工妊娠中絶実施  
率は、前述したように01年(13.0)をピ  
ークに、02年度12.8、03年度11.9、04  
年度10.5、05年度9.4とここ4年ほど減  
少傾向を示しているが、依然として高率  
であることに変わりはない(図1、表1)。  
だからといって、この世代の出生数が増  
えているわけではないのは表2からも明  
らかである。それでは、人工妊娠中絶を  
減少させている要因は何か。中絶手術を  
実施する側にある産婦人科医の見解など  
を参考にして考察してみよう。

2. 調査結果

(1) 都道府県別回収数と分布(表3)

回答人数が多い順に、東京都(117件)、  
大阪府(68件)、福岡県(42件)など  
であったが、回答者は47全都道府県にわた  
っていた。

(2) 20歳未満の中絶実施率が減少した  
と思いますか(図2)

都道府県別20歳未満の人工妊娠中絶実  
施率の年次推移を示した上で、「20歳未満  
の中絶実施率が減少したと思いますか」  
と尋ねたところ、無回答を除く792人の  
うち、572人(72.2%)が「確かに減った」、  
198人(25.0%)が「そうは思わない」、22  
人(2.8%)が「わからない」と回答した  
が、前回2003年調査では「確かに減った」  
の回答26.0%を大幅に上回っていた。中絶  
手術を実施している臨床現場の医師は、  
ここ数年間に見られる20歳未満の人工妊  
娠中絶実施率の減少を実感しているよう  
である。その理由を以下列挙したが、「低  
用量ピルや緊急避妊ピルが普及してきた」  
(東京都)、「県内全高校での性教育の  
効果か」(栃木県)、「避妊教育及びインタ  
ーネット等による情報の効果のため」(神  
奈川県)、「避妊目的以外にも、生理不順・  
生理痛などの治療にピルを積極的に勧め  
ている(結果として避妊にも役立ってい  
る)」(三重県)、「20歳未満の知識が増  
えた(避妊目的で来院する)。人工妊娠中  
絶後はピルをすすめている」(三重県)、  
「妊娠だけは避けたいとの考えが一般化  
したためと思われる。中絶手術の経費が  
負担できないからと考えているのは？」  
(京都府)などを挙げていた(表4  
-1、表4-2)。

(3) 低用量ピルの処方等について

1ヶ月間あたりの低用量ピルの処方シー  
ト数を尋ねるという極めて不躰な質問にも  
丁寧に回答いただいた。回答いただいた767

施設では1施設当たり月平均 94.2 シート。最大 4,000 シート (表 5)。ピルを処方している施設のうち 50.6%は 50 シート未満、50～99 シート 22.6%、100～499 シート 23.9%、500 シート以上は 2.9%であった。一月当たりの全国平均シート数 94.2 シートを超えているのは 14 都道府県であり、トップは青森県 (319.0 シート)、次いで東京都 (1554.4 シート)、北海道、群馬県と続いている。ピルの処方に熱心な医師、コメディカルが数人だけで平均処方シート数を押し上げているのが、わが国におけるピル普及の実態である (図 3)。

また、前年に比べて処方人数が「増加傾向にある」と答えた医師は 48.5% (前回調査 39.7%) であり、「変わらない」は 46.2%、「減少傾向にある」と答えた医師は 5.0% (前回 4.3%)、「不明」0.3%であった。さらに 20 歳未満への処方について尋ねると、「増加傾向にある」28.3%、「変わらない」66.2%、「減少傾向にある」5.0%、「不明」0.5%であった。諸外国の例では、20 歳未満の避妊法としてピルが広く使われているが、わが国においてはまだまだ若年層への普及が図られていない。それを裏付けるのが、それぞれの施設で、低用量ピルが処方されている最も多い年齢層を尋ねると、30 歳代が 52.4%と最も多く、次いで 20 歳代 35.8%、40 歳代 11.2%、10 歳代 0.6%という結果からも明かである (図 4)。若年層でのピルの使用を阻害している要因には経費があるといわれているが、低用量ピルに服用に必要な費用を尋ねると、薬剤費、処方料、血圧測定などルーチンに行う検査費用などを含めて月平均 3,314 円 (前回 3,638 円) という結果であった。

(4) 子宮内避妊具 (IUD) の使用状況について

無回答を除いた 663 施設のうち、現在 IUD を使用している施設は 610 施設 (92.0%)。しかし、IUD 使用件数は月平均 1 件程度 (最大 20 件) で 83.3%が減少傾向にあると回答している。使用している IUD は FD-1® が 53.3%でトップ、次いでマルチロード® CU250R 31.1%、ノバ T® 380 が 12.7%の順。

(4) 緊急避妊ピルの処方について

緊急避妊ピルについては 2005 年の 1 年間における平均処方数は無回答を除く 742 施設のうち 1 施設当たり年間 25.1 件 (2002 年は 14.1 件) であったものの、2006 年には 32.3 件 (2003 年は 1 月から 11 月の 11 か月間で 16.9 件) と著増していた。また、20 歳未満に対する平均処方件数も 2005 年 7.8 件 (2002 年 4.3 件) から 2006 年 9.7 件 (2003 年の 11 か月間 5.1 件) と増加していた。妊娠率は概算で 0.2%程度であった。

緊急避妊ピル処方一件当たりの経費は施設によりばらつきがあるものの平均 5,098 円 (最高 23,000 円、最少 200 円) であった (2003 年 4,705 円)。緊急避妊ピルとしてはドオルトン®とプラノパール®が広く使用されているが、銅付加子宮内避妊具 (IUD) の使用経験を有する医師も 1.2%いた。

## D. 考察

わが国の産婦人科医からは、低用量経口避妊薬 (ピル)・緊急避妊法の周知と普及が 20 歳未満の人工妊娠中絶実施率の減少に寄与しているのではないかとの意見が多数寄

せられているが、それを裏付ける根拠をまとめた。

## 1. 避妊法としての高い評価

避妊法選択の理想条件とは、(1)避妊効果が確実、(2)簡単に使える、(3)セックスのムードを壊さず、さらに性感を損なわない、(4)経費がかからない、(5)副作用がなく、妊娠しても胎児に悪影響を及ぼさない、(6)女性の意志だけで実行できる、さらに加えれば、(7)避妊以外の健康上の利点が期待できるなどが挙げられる。この理想条件を完全に満たす避妊法はないが、ピルは限りなくこの条件を満たしている。

(1) 確実な避妊法：各種避妊法使用開始一年間の失敗率をみると理想的な使用では 0.3 と高く、しかも可逆的避妊法ということから若年者には有用であると考えられている。

(表 6)

(2) 使用法が簡単：平成 18 年 2 月に (社) 日本産科婦人科学会編「低用量経口避妊薬 (OC) の使用に関するガイドライン」が改訂されたが、ここには、「実薬を 3 錠以上飲み忘れた場合、あるいは飲み始めるのが 3 日以上遅れた場合」の飲み方や必要に応じた緊急避妊法の使用についてわかりやすく解説しており、それを十分に心掛けていれば飲み忘れに対してさほど神経質になる必要はない (表 7)。

(3) セックスのムードを壊さない：性交時に装着するコンドームに比べて用意周到な避妊ができる価値は高い。

(4) 一年間ではピルが最も安価：ピルを入手するには経費がかかり過ぎるとの批判が一部にあるが、本研究では、低用量ピルに必要な費用は薬剤費、処方料、血圧測定など

ルーチンに行う検査費用などを含めて月平均 3,314 円という結果であった。今回ガイドラインが改訂されたことによって、処方しやすくなったとの声が現場から上がっているだけでなく、経費についても平成 15 年の平均 3,638 円から 300 円余安価になっている。しかも避妊法にかかる経費とは、避妊法購入に必要な直接的経費、副作用の治療費、望まない妊娠に伴う経費などを加えたものであり、それによれば 1 年間で最も格安な避妊法はピル、5 年間では銅付加子宮内避妊具との研究もある (図 5)。

(5) 血栓症などのリスクはあるが、医学的禁忌がなく血圧測定がきちんとなされ必要に応じた治療がなされていれば問題は少ない。ガイドライン改訂版では、若年者がピルを服用することについても、「医学的禁忌がない限り、生殖可能年齢の如何なる時期でも OC (ピル) を使用してもよい」と書かれているほどに、安全性は確保されていると考えてよい (表 8)。もちろん、ピル服用初期には悪心や少量の出血が続くなどのマイナートラブルについては認識しておく必要があるが。

(6) 女性の意志だけで使用できるが、STD 予防はできないので、コンドームの使用を考慮しなければならない (Dual Protection against unwanted pregnancy and sexually transmitted infections.)

(7) ピルには月経に伴うトラブル、卵巣癌、子宮内膜癌、子宮内膜症などの予防・改善に役立つことが知られている (改訂ガイドライン、図 6)。

## 2. 先進国における実績

避妊先進国の若者は、初交時にはコンド